

1 学びのセーフティネットの構築

(1) プログラム開発の背景

国民生活基礎調査において、日本の子どもの貧困率が平成24年に過去最悪の16.3%になったことなどを受け、国は「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を平成25年に成立させた。

本道においても、「北海道子どもの貧困対策推進計画」において、子どもが貧困の連鎖から脱出するためには、世帯の経済的な状況にかかわらず、自分の現在及び将来を自ら選択できるようにすることが重要であることから、すべての子どもの教育を受ける機会を保障し、能力・可能性を最大限伸ばしていけるよう教育の支援に取り組むとしている。

このことから、道立青少年体験活動支援施設においても、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることのないよう、安全・安心な環境の中で体験活動を楽しむことができるプログラムを開発するものである。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道総合教育大綱 基本方針Ⅱ 子どもの学びと成長の環境を整える「学びのセーフティネットの構築」

生まれ育った地域や環境に左右されず質の高い教育を受けることができるよう、就学に係る経済的支援の取組を進めるほか、様々な教育的ニーズに対し、多様な学習機会を提供するなど、教育環境の向上を図ります。

・北海道教育推進計画 施策項目20「学びのセーフティネットの構築」

子どもの将来がその生まれ育った環境等によって左右されることなく、健やかに育成されるよう、就学に係る経済的支援の推進や相談機能の充実、多様な学習機会の提供や子どもの居場所づくりなど、教育環境の向上のための取組の充実を図ります。また、教育支援はもとより、生活支援、保護者に対する就労支援、経済的支援の施策について、知事部局と連携し、各種支援の情報提供に取り組めます。

・北海道子どもの貧困対策推進計画 2教育の支援「多様な体験活動の機会の提供」

道立青少年体験活動支援施設において、不登校や障がいなど困難を抱える児童生徒の体験活動を支援します。また、児童養護施設等に入所する子どもの社会性や豊かな人間性の醸成等につながる多様な体験活動の機会を設けることに努めます。

(3) 各施設実施プログラムの概要

足寄	ネイパル夏物語	
令和2年7月23日(木)～25日(土) (2泊3日)		学習、フォトコンテスト、プログラミング、理科実験など
足寄	ネイパル冬物語	
令和2年12月26日(土)～28日(月) (2泊3日)		学習、運動会、パステルアート、工作など
厚岸	週末等学習サポート	
令和2年12月6日(日)～ 令和3年3月21日(日)(各日帰り)		学習

ネイパル夏物語

1 事業のねらい

施設での体験活動や学習指導を通して、より多くの子どもに均しく体験や学習の機会を保障するとともに、豊かな心やたくましく未来を切り開く心を育む。

2 事業の概要

- 期日 R2.7.23(木)～25(土) 2泊3日
- 対象 小学校3～6年生
- 人数 23名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 帯広工業高等学校工業技術部

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
7/23 (木)									開会式	なかよく なろう	生活目標 立てよう	夕食	学習 タイム		入浴 自由	就 寝
7/24 (金)	起床	朝食	読書	学習 タイム	おもしろ フォトコンテスト		昼 食	コンテスト 投票結果発表	プログラミング タイム	学習タ イム	夕食	ソーシャルディス タンスゲーム		入浴 自由	就 寝	
7/25 (土)	起床	朝食	清掃	学習 タイム	実験 タイム	閉 会										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 高校生の指導によるプログラミング体験
 - ・参加者と年齢が近い高校生を講師として活用して学習することで、プログラミングを身近に感じたり、気軽に話したりしながら楽しく学ぶことができるようにした。
- 望ましい生活習慣の定着
 - ・生活目標や学習目標を設定し、毎日「振り返りシート」で翌日の生活や学習をどのようにするとよいのか見直す時間を設定することで、望ましい生活習慣や学習習慣を意識した行動をとることができるようにした。



高校生からプログラミングを学ぶ



自ら計画をたて、学習に臨む

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・「学校以外での体験や学習も楽しいと感じたか」という項目に「感じた」「少し感じた」と肯定的に回答したのは90.9%
 - ・「プログラミングタイム」が「良かった」「少し良かった」と肯定的に回答したのは100%
- 参加者の声
 - ・高校生のお姉さんに教えてもらいながら、ロボットを動かすことができ、プログラミングが私たちの生活に大きく関わっていることがわかった。
 - ・計画をしっかり立ててから家庭学習をやった方が、よく進みし勉強がよくわかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートで「高校生に教えてもらってよかった」という声が多くあった。参加者の年齢や事業のねらいを踏まえた講師の選定をすることで体験活動の効果が深まり、次の活動への意欲につながると考えられる。
- ねらいを鑑みた参加者の確保のために、母子会やこども食堂など、福祉関係の団体等と連携する必要がある。



企画のポイント

ねらいを踏まえた関係団体との連携や、参加者の実態を踏まえた講師の選定